

多古町歴史講座 「千田庄と千葉氏を探る」 シーズン2 開催要項

会場：多古町コミュニティプラザ文化ホール

多古町は歴史と伝統文化に溢れる町です。私たちが自ら住む町の歴史を知ることとはとても大切なことで、先人から受け継いだものを後世に伝える力が養われるとともに、郷土を愛する心の育成につながります。

多古町教育委員会では、平安時代末期から戦国時代にかけて房総半島北部一帯を支配した千葉氏と、その中心として繁栄した千田庄にまつわる歴史を町民の皆様に広く知っていただくため、昨年を引き続き、下記のとおり全5回のシリーズで多古町歴史講座を開催します。

※入場は無料です。お問合せ：多古町コミュニティプラザ ☎0479 - 76 - 7811

◆第1回講座 平成30年7月7日（土）午後2時～

- 1) テーマ 中世下総国の文化の中心地だった千田庄
～ 下総藤原氏と千葉氏 ～
- 2) 講師 京都女子大学名誉教授 野口 実 先生
- 3) 内容 中世「千田庄」と呼ばれた多古町とその周辺の地域は歴史資産の宝庫である。平安時代末期には、摂関家に仕え、平家と二重の姻戚関係を結んだ下総藤原氏の本拠であった。その最後の当主親政（千田庄領家判官代）は源頼朝の挙兵に呼応した千葉氏によって滅ぼされたが、千田庄は千葉氏の直轄領となり、この地に割拠していた両総平氏の一族はその家臣として活躍することとなる。鎌倉時代、下総の文化の中心となり、宋から経典を将来し、京都で活躍するような高僧を生んだ千田庄について最新の研究に基づいて語る。

◆第2回講座 平成30年8月18日（土）午後2時～

- 1) テーマ 肥前小城から千田庄をみて
～ 肥前千葉氏の足跡について ～
- 2) 講師 小城市教育委員会文化課長 古庄 秀樹 先生
- 3) 内容 元寇によって千田庄にいた千葉氏は肥前国に移住した。その後、室町中期に肥前千葉氏は李氏朝鮮と交易し、朝鮮側からも「千葉殿」の呼称を与えられる。江戸時代には鍋島藩となるがその基礎となったのは肥前千葉氏とその家臣たちである。小域に残る肥前千葉氏の足跡について語る。

◆第3回講座 平成30年10月7日(日)午後2時～

- 1) テーマ 室町中期の千田庄
～ 享徳の乱前後と千葉氏 ～
- 2) 講師 千葉県教員 石橋 一展 先生
- 3) 内容 南北朝の内乱が終結しても、関東では大乱続きであった。
下総千葉氏もまた、室町幕府、鎌倉公方・足利氏さらには関東管領上杉氏との争いに巻き込まれる。そのなかで千葉胤直父子と馬加康胤・原胤房が対立し、胤直父子は千田庄に逃れ、この地で滅亡する。享徳の乱前後の千田庄と千葉氏について語る。

◆第4回講座 平成30年12月15日(土)午後2時～

- 1) テーマ 千田庄東禅寺の経営者・湛睿
～ 中世学僧の奮闘記 ～
- 2) 講師 神奈川県立金沢文庫 主任学芸員 道津 綾乃 先生
- 3) 内容 嘉暦元年(1326年)、千田庄東禅寺に新たな住持が就任した。
その名は本如房湛睿(ほんによぼうたんえい)。間もなく鎌倉幕府は滅亡し、中先代の乱、土橋動乱、箱根竹の下合戦と相次いで起こった騒乱を、湛睿は東禅寺長老として切り抜けた。
湛睿は、横浜市金沢にある称名寺を活動拠点とし、40代には奈良・東大寺、大阪・久米多寺に留学した学僧で、江戸時代編纂の『本朝高僧伝』に伝記が載る知る人ぞ知る碩学。そんな学究肌の僧侶が明日をも知れぬ時代に寺院経営を担うことに…。中世学僧の奮闘ぶりを「国宝 称名寺聖教・金沢文庫文書」から紹介する。

◆第5回講座 平成31年1月26日(土)午後2時～

- 1) テーマ 千田庄から武蔵に移った千葉氏
～ 千葉胤直の滅亡、その後に復活した武蔵千葉氏 ～
- 2) 講師 元足立区地域文化課文化財係・学芸員 加増 啓二 先生
- 3) 内容 室町中期、室町幕府と鎌倉府の対立の中で、千葉氏嫡流家・胤直は千田庄東禅寺で自害し滅亡した。
その後、その甥である千葉実胤・自胤兄弟は太田資長(道灌)の支援により武蔵国に居を構え、武蔵千葉氏を称した。そして、その一族とその末裔たちは、現在の東京都足立区・台東区・練馬区・板橋区にあたる地域に勢力をのばした。武蔵千葉氏について勃興の歴史について語る。